

他臓器癌の重複をみた大腸癌手術例の検討 —自験例11例と本邦文献例165例の分析—

埼玉医科大学第1外科
羽 田 野 隆

ANALYSIS OF OPERATED CASES OF LARGE INTESTINAL CANCER ACCOMPANIED BY CANCER OF OTHER ORGAN —A REVIEW OF 11 CASES AND 165 REPORTED CASES IN THE JAPANESE LITERATURE—

Takashi HATANO

First Department of Surgery, Saitama Medical School

他臓器重複大腸癌の手術例について自験例11例と本邦文献例165例を収集し、臨床統計的に分析して次の主な結果を得た。

1. 最近症例数は増加しており、他臓器先行重複大腸癌25.6%、同時性重複大腸癌55.1%、大腸癌先行重複癌19.3%となっていた。
2. 他臓器癌の種類は他臓器重複胃癌と同様、日本人に多い癌、臨床度の高い癌が上位をしめた。
3. 大腸癌先行重複癌は他に比べて特異的で、大腸癌手術時年齢で男は7歳以上若く、単発性の比率が減少し、大腸癌を最多とする悪性腫瘍の遺伝負荷は高率だった。したがって異時性重複は他臓器先行と大腸癌先行をわけて取り扱い検討した。

索引用語：他臓器重複大腸癌

I. はじめに

個体に重複癌が発生した場合に、それが全く偶然の確率に支配されたものか、あるいは何等かの因子が関与しているのかは興味ある問題である。とくに近年著しく進歩をとげた診断や治療法、平均寿命の延長、社会問題化した環境汚染、発癌物質の解明などに関連して、一層切実な問題を提起しているといえる。著者は当科における大腸癌手術症例132例のうち、11例、8.3%の他臓器癌重複症例（以下他重複大腸癌）を認めたのを機会に、本邦文献例165例を検索し、あわせて臨床統計的な分析を行ってその特徴をまとめてみた。

II. 研究対象および結果

症例はすべて大腸癌、他臓器癌ともに生検手術を含む手術が行なわれたものを対象とし、両手術の間隔が1年以下のものを同時性重複、1年を越えるものを異時性重複とした。さらに後者を他臓器癌が先行した症例（以下他先重複）と大腸癌が先行した症例（以下大

腸先重複）とに分類した。

当科における自験例は1980年12月までの23年間に手術された大腸癌132例中にみられた11例で、同時性重複5例、他先重複5例、大腸先重複1例からなる。

本邦臨床文献例は1980年までの報告を医学中央雑誌¹⁾によって検索し、多少の遺漏はあろうが収集しえたもののうち記載がある程度明瞭である165例を対象とした。これらは同時性重複92例^{2)~8)}(表1)、他先重複40例^{9)~14)}(表2)、大腸先重複33例^{15)~18)}(表3)からなる。

a. 症例数(表4)

これらの当科症例および本邦臨床文献例を総合すると、大腸癌、他臓器癌の両者に手術が行われた重複癌176例のうち同時性重複97例、55.1%、異時性重複79例、44.9%で、後者はさらに他先重複45例、60.0%、大腸先重複34例、40.0%にわけられる。以下主としてこの3者を対比しつつ検討を加える。

表1 他臓器癌の同時性重複をみた大腸癌の手術報告例

症例番号	報告者(報告年)	性	年齢	合併他臓器癌	症例番号	報告者(報告年)	性	年齢	合併他臓器癌
1	鈴木 ²⁾ (1924)	男	35	胃癌	35	山形ら ³²⁾ (1967)	男	58	胃癌
2	土肥 ³⁾ (1939)	男	53	胃癌	36	細川 ³³⁾ (1968)	女	26	胃癌, 空腸癌 卵巣癌
3	土肥 ³⁾ (1939)	女	45	胃癌	37	高邑ら ³⁴⁾ (1968)	男	53	胃癌
4	渡辺 ⁴⁾ (1951)	女	43	右卵巣癌	38	石田ら ³⁵⁾ (1969)	男	54	胃癌
5	渡辺 ⁴⁾ (1951)	男	40	胃癌	39	石田ら ³⁵⁾ (1969)	女	53	胃癌
6	渡辺 ⁴⁾ (1951)	女	26	右乳癌	40	石田ら ³⁵⁾ (1969)	男	49	胃癌
7	小林 ⁵⁾ (1951)	女	60	上顎癌	41	森ら ³⁶⁾ (1969)	男	66	胃癌
8	藤谷ら ⁶⁾ (1952)	女	32	左乳癌	42	藤田ら ³⁷⁾ (1970)	男	61	胃癌
9	福地 ⁷⁾ (1953)	男	65	胃癌	43	天羽ら ³⁸⁾ (1971)	男	56	胃癌, 胃癌, 食道癌
10	劉 ⁸⁾ (1956)	女	62	胆嚢癌	44	岩崎ら ³⁹⁾ (1971)	女	61	左腎癌
11	朝倉ら ⁹⁾ (1957)	女	49	胃癌	45	下山ら ⁴⁰⁾ (1971)	女	68	右乳癌
12	朝倉ら ⁹⁾ (1957)	男	61	胃癌	46	春田ら ⁴¹⁾ (1973)	男	37	胃癌
13	金子ら ¹⁰⁾ (1957)	男	70	皮膚癌	47	佐藤ら ⁴²⁾ (1973)	女	24	右乳癌, 左乳 癌
14	村山ら ¹¹⁾ (1958)	女	57	子宮癌	48	榎本ら ⁴³⁾ (1973)	男	56	胃癌, 胃癌
15	池淵ら ¹²⁾ (1959)	男	57	胃癌	49	古屋ら ⁴⁴⁾ (1973)	女	67	胃癌
16	宮城ら ¹³⁾ (1959)	男	48	胃癌	50	渡辺ら ⁴⁵⁾ (1973)	男	64	胃癌
17	木由ら ¹⁴⁾ (1959)	男	58	胃癌	51	山下ら ⁴⁶⁾ (1973)	女	59	十二指腸 乳頭癌
18	横沢ら ¹⁵⁾ (1959)	女	34	左乳癌	52	加藤ら ⁴⁷⁾ (1974)	女	76	右乳癌
19	中村ら ¹⁶⁾ (1960)	男	61	陰茎癌	53	加藤ら ⁴⁷⁾ (1974)	女	49	右乳癌
20	深町ら ¹⁷⁾ (1960)	女	64	胃癌	54	山本ら ⁴⁸⁾ (1974)	男	71	胃癌
21	大沼ら ¹⁸⁾ (1960)	男	49	多発性骨髄腫	55	山本ら ⁴⁸⁾ (1974)	男	47	胃癌
22	吉原ら ¹⁹⁾ (1960)	女	51	甲状腺癌	56	新井ら ⁴⁹⁾ (1974)	男	65	胃癌
23	菅村ら ²⁰⁾ (1960)	男	66	胃癌	57	木原ら ⁵⁰⁾ (1974)	女	57	胃癌
24	大脇 ²¹⁾ (1961)	女	65	胃癌	58	湯川ら ⁵¹⁾ (1974)	女	75	胃癌
25	喜多ら ²²⁾ (1961)	女	68	右腎 Gravitz	59	網村ら ⁵²⁾ (1974)	男	68	胃癌
26	桑原 ²³⁾ (1962)	男	71	左腎 Gravitz	60	千葉ら ⁵³⁾ (1974)	女	60	胃癌
27	石田ら ²⁴⁾ (1963)	男	72	胃癌	61	飯塚ら ⁵⁴⁾ (1975)	男	71	胃癌
28	岡益ら ²⁵⁾ (1964)	女	49	右乳癌	62	西村ら ⁵⁵⁾ (1975)	男	50	胃癌, 胃癌
29	国藤ら ²⁶⁾ (1965)	女	46	右乳癌	63	渡辺ら ⁵⁶⁾ (1975)	女	46	胃癌
30	下山田ら ²⁷⁾ (1966)	男	68	胃癌	64	船曳ら ⁵⁷⁾ (1975)	女	75	回腸リンパ 肉腫
31	碓井 ²⁸⁾ (1966)	男	65	胃癌	65	坂本ら ⁵⁸⁾ (1976)	女	63	胃癌
32	山内ら ²⁹⁾ (1967)	女	16	胃癌	66	金子ら ⁵⁹⁾ (1976)	男	56	胃癌
33	志村ら ³⁰⁾ (1967)	男	39	胃癌	67	斉藤ら ⁶⁰⁾ (1976)	男	38	胃癌
34	奥ら ³¹⁾ (1967)	男	76	食道癌					

症例番号	報告者 (報告年)	性	年齢	合併他臓器症	症例番号	報告者 (報告年)	性	年齢	合併他臓器症
68	前 田ら ⁶¹⁾ (1976)	男	52	空腸癌	84	竹 下ら ⁷⁵⁾ (1979)	男	54	胃平滑筋肉腫
69	浦 壁ら ⁶²⁾ (1976)	男	61	舌 癌	85	竹 下ら ⁷⁵⁾ (1979)	男	76	胃平滑筋肉腫
70	田 中ら ⁶³⁾ (1976)	男	65	胃 癌	86	西 尾ら ⁷⁶⁾ (1979)	男	51	胃 癌
71	前 田ら ⁶⁴⁾ (1977)	女	78	右乳癌	87	西 尾ら ⁷⁷⁾ (1979)	男	57	胃 癌
72	前 田ら ⁶⁴⁾ (1977)	女	46	左乳癌	88	西 尾ら ⁷⁷⁾ (1979)	男	44	胃 癌
73	中川原ら ⁶⁵⁾ (1977)	女	63	右乳癌	89	田 中 ⁷⁸⁾ (1979)	男	69	胃 癌
74	成 田ら ⁶⁶⁾ (1977)	男	70	右腫瘍	90	金 子ら ⁷⁹⁾ (1979)	女	65	回腸癌
75	山 田ら ⁶⁷⁾ (1977)	女	72	胃 癌	91	高 野ら ⁸⁰⁾ (1980)	女	76	胃 癌
76	山 田ら ⁶⁷⁾ (1977)	女	59	胃 癌	92	鈴 木ら ⁸¹⁾ (1980)	男	78	肺 癌
77	山 崎ら ⁶⁸⁾ (1977)	女	65	膵臓癌	93	自 験 例	男	57	胃 癌
78	染 野ら ⁶⁹⁾ (1978)	女	74	胃 癌	94	自 験 例	女	52	胃胃癌
79	雨 宮ら ⁷⁰⁾ (1978)	女	63	胃 癌	95	自 験 例	男	55	回腸癌
80	山 下ら ⁷¹⁾ (1978)	男	64	Vater乳頭癌	96	自 験 例	男	66	胃 癌
81	山 初ら ⁷²⁾ (1978)	男	56	胃 癌	97	自 験 例	男	70	胃 癌
82	齊 藤ら ⁷³⁾ (1978)	男	65	皮膚癌					
83	下 山ら ⁷⁴⁾ (1978)	女	43	胃 癌					

b. 報告年代別症例数 (表 4)

3者とも1971年以降の報告が増えているが、この傾向は他先重複において著しい。

c. 性・年齢 (表 4)

他臓器癌重複大腸癌全例の性比は1.51:1で男に多いが、その内わけをみると他先重複が1.65:1, 同時性重複が1.26:1, 大腸先重複が2.40:1と大差が認められる。当科における大腸癌手術全例の性比は1.13:1であるから、大腸先重複で男が多いことが特徴といえる。

他臓器癌重複大腸癌と判明した時の平均年齢をみると他臓器癌重複大腸癌全例で男58.0歳, 女59.0歳, 平均58.5歳, 他先重複で男58.2歳, 女58.8歳, 平均58.5歳, 同時性重複で男59.0歳, 女55.4歳, 平均57.2歳と差はほとんどないが、大腸先重複では男56.8歳, 女62.8歳, 平均59.8歳と男は若い方にずれ、女は高年の方にずれている。当科における大腸癌手術全例の手術時平均年齢60.4歳と比較すると他臓器癌重複大腸癌全例で約2歳若い。

大腸先重複の先行大腸癌手術当時の平均年齢は男50.8歳, 女56.1歳, 平均53.4歳と、当科の大腸癌手術全例に比して男で約11歳, 女は約2歳, 平均7歳いずれも若い方にずれている。

d. 他臓器癌の種類 (表 5)

他先重複45例にみられた46個, 同時性重複97例にみられた101個, 大腸先重複34例にみられた39個の化臓器癌の種類を検討すると、全例では胃癌96個, 51.6%, 乳癌22個, 11.8%, 子宮癌11個, 5.9%, 腎・尿管・膀胱癌10個, 胆のう・胆管癌5個の順になっている。

個々について特徴的なのは同時性・他先重複型の乳癌, 大腸先重複型の泌尿器系癌, 胆道系癌, 他先重複型の前立腺癌が目立っている。子宮癌は同時性重複が少なく, 異時性重複型といえる。さらに剖検例として昭和33年から43年までの11年間の日本病理剖検輯報¹⁴³⁾により90例の他臓器重複大腸癌を収集し, その他臓器癌97個を対照した。これによると胃癌がやはり最も多いことは臨床例と同じであるが, 子宮癌, 乳癌のように臨床的に予後が比較的良好なものが著明に減少し, 代って肺癌の増加が目立つ。また甲状腺癌が剖検例でやや多目であることが注目される。

これらの他臓器癌を消化器系と異系とに大別すると同時性他重複の73.3%が消化器系で, 他先重複, 大腸先重複はそれぞれ50.0%, 56.4%となっている。さらにくわしく検討すると同時性重複の女性例, 大腸先重複, 剖検例はほぼ似ており消化器系が65%, 56%, 53%となっている。他先重複の男性例および同時性重複の男性例では胃癌の比率が高く, 消化器系78.6%, 87.3%

表2 他臓器癌の異時性重複をみた大腸癌の手術報告例（他臓器癌先行）

症例番号	報告者（報告年）	性	他癌た重と時の複判の大明年腸し齡	先行他臓器癌（当時年齢）	症例番号	報告者（報告年）	性	他癌た重と時の複判の大明年腸し齡	先行他臓器癌（当時年齢）
1	伊 勢 ⁸²⁾ (1944)	男	51	胃癌 (49)	24	古 山ら ¹⁰²⁾ (1976)	女	64	左乳癌 (57)
2	山 本ら ⁸³⁾ (1951)	男	49	胃癌 (47)	25	谷 口 ¹⁰³⁾ (1976)	女	60	右乳癌 (更に2年3カ月後胃癌) (58)
3	加 藤ら ⁸⁴⁾ (1960)	男	49	胃癌 (48)	26	小 林ら ¹⁰⁴⁾ (1977)	女	56	左乳癌 (48)
4	安 本ら ⁸⁵⁾ (1962)	男	43	胃癌 (39)	27	古 山ら ¹⁰⁵⁾ (1977)	女	55	上顎癌 (47)
5	槇 ら ⁸⁶⁾ (1963)	男	51	胃癌 (41)	28	成 末ら ¹⁰⁶⁾ (1977)	男	57	Vater乳頭癌 (53)
6	田 中ら ⁸⁷⁾ (1963)	女	56	左乳癌 (47)	29	古 川ら ¹⁰⁷⁾ (1977)	女	53	子宮癌 (更に5年6カ月後左乳癌) (48)
7	世 良ら ⁸⁸⁾ (1963)	男	44	胃癌 (40)	30	中 西ら ¹⁰⁸⁾ (1978)	男	63	胃癌 (62)
8	庄 司ら ⁸⁹⁾ (1967)	男	42	胃癌 (40)	31	雨 宮ら ⁷⁰⁾ (1978)	男	69	胃癌 (65)
9	神 谷ら ⁹⁰⁾ (1967)	女	57	子宮癌 (49)	32	高 田ら ¹⁰⁹⁾ (1978)	男	54	膀胱癌 (更に1年8カ月後胃癌) (52)
10	伊地知ら ⁹¹⁾ (1969)	女	62	胃癌 (59)	33	三 好ら ¹¹⁰⁾ (1978)	男	55	胃癌 (50)
11	浜 口ら ⁹²⁾ (1969)	男	59	胃癌 (50)	34	竹 下ら ⁷⁵⁾ (1979)	男	74	胃癌 (66)
12	宮 司 ⁹³⁾ (1970)	女	54	子宮癌 (更に3年5カ月後胃癌) (51)	35	西 尾ら ⁷⁶⁾ (1969)	男	75	胃癌 (65)
13	浅 井ら ⁹⁴⁾ (1971)	女	47	子宮癌 (更に10数年後右乳癌) (30余)	36	西 尾ら ⁷⁶⁾ (1979)	男	41	胃癌 (40)
14	岩 崎ら ³⁹⁾ (1971)	女	57	子宮癌 (49)	37	西 尾ら ⁷⁷⁾ (1979)	男	71	胃癌 (65)
15	岩 崎ら ³⁹⁾ (1971)	女	59	子宮癌 (54)	38	西 尾ら ⁷⁷⁾ (1979)	男	35	胃癌 (31)
16	伴 場ら ⁹⁵⁾ (1972)	男	72	左肺癌	39	丸 谷ら ¹¹¹⁾ (1979)	女	69	子宮癌 (45)
17	中 村ら ⁹⁶⁾ (1972)	男	68	左上顎癌	40	田 中ら ¹¹²⁾ (1980)	男	43	空腸癌 (40)
18	石 田ら ⁹⁷⁾ (1973)	男	42	胃癌 (41)	41	自 験 例	男	74	前立腺癌 (66)
19	米 地ら ⁹⁸⁾ (1973)	男	58	右肺癌 (55)	42	自 験 例	男	82	前立腺癌 (68)
20	山 本 ⁹⁹⁾ (1974)	男	67	食道癌 (65)	43	自 験 例	女	52	左乳癌 (50)
21	加 藤ら ⁴⁷⁾ (1974)	女	78	右乳癌 (69)	44	自 験 例	男	66	胃癌 (63)
22	中 川ら ¹⁰⁰⁾ (1974)	男	64	胃癌 (57)	45	自 験 例	男	80	前立腺癌 (77)
23	喜 多ら ¹⁰¹⁾ (1975)	女	52	子宮癌 (45)					

となっている。

e. 大腸癌の大腸区分と単発・多発の別（表6）

大腸区分は他先重複では直腸が25個, 52.1%, 結腸21個, 43.8%, 大腸先重複では結腸が18個46.2%, 直腸が15個, 38.5%の順であるが同時性重複ではちょうど両者の中間に位置し, 直腸49個, 48.5%, 結腸45個, 44.6%とほぼ同率となっている。

大腸癌の単発, 多発の別を判明した148例について検討すると, 単発癌121例, 81.8%, 大腸内同時多発癌16

例, 10.8%, 大腸癌異時性重複8例, 5.4%, 大腸内同時多発および異時性重複3例2.0%となっている。また同時性重複における大腸内同時多発癌発生率は77例中12例, 15.6%と異時性他重複に比べて有意に増加している ($p < 0.05$)。

f. 大腸癌手術と他臓器癌手術の間隔（図1）

複数の異時性他臓器癌を有する大腸癌症例を除き, 単数の異時性他臓器癌を有する症例を検討すると, 他先重複42例, 大腸先重複26例の計68例である。これに

表3 他臓器癌の異時性重複をみた大腸癌の手術報告例(大腸癌先行)

症例番号	報告者(報告年)	性	他癌と重複判明の年齢	後発他臓器癌	症例番号	報告者(報告年)	性	他癌と重複判明の年齢	後発他臓器癌
1	若林 ¹¹³⁾ (1941)	男	69	後腹膜リンパ節細網肉腫	18	坂田 ¹²⁹⁾ (1971)	男	59	右尿管癌 胆嚢癌
2	矢吹 ¹¹⁴⁾ (1941)	男	46	胃癌(更に5年後胃癌)	19	山初ら ¹³⁰⁾ (1971)	女	58	(回盲部癌同時合併)
3	朝倉ら ⁹⁾ (1957)	男	47	胃癌	20	大山ら ¹³¹⁾ (1972)	男	36	胃癌(更に1年2カ月後直腸癌)
4	中村ら ¹¹⁵⁾ (1959)	男	40	左腎盂癌	21	大畑ら ¹³²⁾ (1972)	男	66	両側肺癌
5	木山ら ¹¹⁶⁾ (1960)	男	61	左腎Grawitz腫瘍	22	山下ら ¹³³⁾ (1973)	男	56	胃癌
6	北島ら ¹¹⁷⁾ (1960)	男	68	胃癌	23	古山ら ¹³⁴⁾ (1974)	男	56	喉頭癌(更に7年2カ月後胃癌)
7	蜂須賀ら ¹¹⁸⁾ (1963)	男	63	軟口蓋癌	24	千葉ら ¹³⁵⁾ (1974)	男	54	胃癌(直腸癌同時合併)(更に6年5カ月後膀胱癌)
8	三隅ら ¹¹⁹⁾ (1964)	男	59	胆嚢癌	25	青柳ら ¹³⁶⁾ (1974)	女	73	肝内胆管癌
9	村井ら ¹²⁰⁾ (1965)	女	53	子宮癌	26	石沢ら ¹³⁷⁾ (1976)	女	59	左乳癌
10	佐藤ら ¹²¹⁾ (1965)	女	47	十二指腸癌	27	村山ら ¹³⁸⁾ (1978)	男	58	右尿管癌
11	江原ら ¹²²⁾ (1966)	男	63	胃癌	28	西尾ら ⁷⁶⁾ (1979)	男	56	胃癌
12	青木ら ¹²³⁾ (1967)	女	57	卵巣癌、子宮癌(更に1年8カ月後胃癌)	29	西尾ら ⁷⁷⁾ (1969)	男	53	胃癌
13	浅利ら ¹²⁴⁾ (1967)	男	56	胃癌(直腸癌同時合併)	30	三品ら ¹³⁹⁾ (1979)	女	72	左肺癌
14	熊谷ら ¹²⁵⁾ (1968)	男	43	胃癌	31	石原ら ¹⁴⁰⁾ (1979)	女	58	右乳癌
15	坂下ら ¹²⁶⁾ (1968)	男	56	胃癌	32	覚道ら ¹⁴¹⁾ (1979)	男	76	舌癌
16	高安ら ¹²⁷⁾ (1969)	男	48	右腎癌	33	古賀ら ¹⁴²⁾ (1979)	男	74	右肺癌
17	斉藤ら ¹²⁸⁾ (1969)	女	75	胃癌	34	自験例	女	76	胆嚢癌、膵臓癌

更に同期間に報告された同時性他重複症例97例中、同時性他臓器癌が単数である93例を追加して計161例について大腸癌手術と他臓器癌手術の間隔および症例数との関係を示す。対照として西らが全く同様の方法で癌研外科における単数の他臓器癌を有する胃癌67例について分析した結果¹⁴⁴⁾を参照してある。ただし症例数の絶対値を比較するために、比例計算により癌研外科例の症例数を67例から161例に改変してある。

これによると大腸癌では同時性癌と隣接した他先重複部を中心とした山が高くなり、周辺部分は平低化している。そして他先重複側でも胃癌例では同時性の両脇に明らかに認められる陥入部が周辺方向に約4年移動していることが目立つ。

8. 悪性腫瘍の遺伝負荷(表7)

2親等までの血族に悪性腫瘍が認められたのは、他先重複では判明した15例中6例、40.0%、同時性重複では48例中14例、29.2%、大腸先重複では17例中8例、47.1%となっており当科の大腸癌手術全例の31.8%に比して、同時性重複はほぼ一致、異時性重複は有意差には至らないがかなり高率である。その内容は他先重複および同時性重複では胃癌が最も多くそれぞれ50.0%、46.7%だが、大腸先重複では大腸癌が最も多く56.3%をしめている。

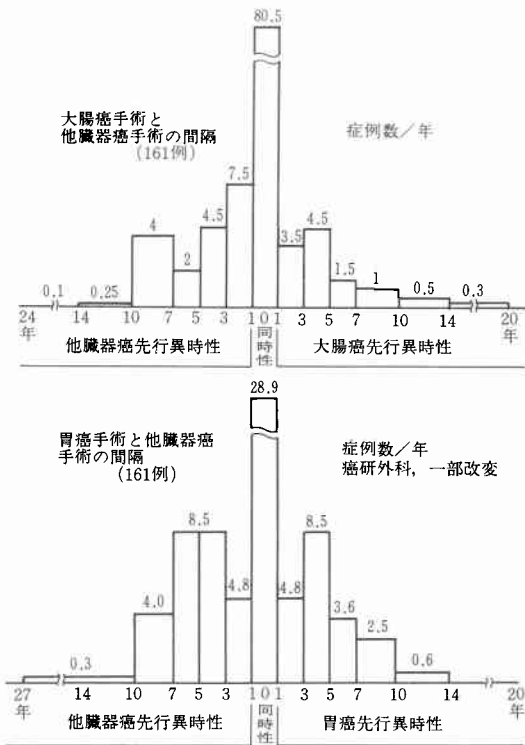
h. 大腸ポリープの合併(表8)

切除された大腸標本に大腸ポリープの存在が認められた症例は他先重複では判明した13例中4例、30.8%、同時性重複で41例中7例、17.1%、大腸先重複で13例中3例、23.1%である。当科における大腸癌手術全例

表4 他臓器癌の重複をみた大腸癌の手術報告例

		他先重複		同時性重複		大腸先重複		当科の 一般大腸癌	
症例数		45例	25.6%	97例	55.1%	34例	19.3%	132例	
報告年 年代別数	～1950	1例	2.2%	3例	3.1%	2例	5.9%		
	1951～1960	2例	4.4%	20例	20.6%	4例	11.8%	2例 1.5%	
	1961～1970	9例	20.6%	19例	19.6%	11例	32.4%	20例 15.2%	
	1971～1980	33例	73.3%	55例	56.7%	17例	50.0%	110例 83.3%	
性別	男	28例	62.2%	54例	55.7%	24例	70.6%	70例 53.0%	
	女	17例	37.8%	43例	44.3%	10例	29.4%	62例 47.0%	
他臓器癌重複 大腸癌と判明 した手術時年 齢(レンジ)	男	58.2歳(35～82)		59.0歳(35～78)		56.8歳(36～76)			
	女	58.8歳(47～78)		55.4歳(16～78)		62.8歳(47～76)			
大腸癌手術時 年齢(レンジ)	男	58.2歳(35～82)		59.0歳(35～78)		50.8歳(34～75)		62.3歳(26～84)	
	女	58.8歳(47～78)		55.4歳(16～78)		56.1歳(44～72)		58.4歳(31～82)	

図1 大腸癌手術と他臓器手術の間隔(胃癌例との比較)



のポリープ合併例は25例, 18.4%で著差は認められない。

III. 考 察

重複癌の発生に関しては単なる偶然の確率に支配さ

れず, 遺伝因子, 免疫応答能をはじめとする全身的な発癌素因, 同一臓器因子や同一系統器官因子, 内分泌環境などの関与が推定される。西および関は胃と他臓器の重複癌の手術例について検討し, ① 日本人に多い癌が同一個体内でも重複していること, ② ある集団において発癌率の高い臓器内に多発しやすいこと, ③ 他臓器癌の種類は外科臨床的に頻度の高いものや治癒度の高いものが上位をしめることを指摘している¹⁴⁾。

日本人に多い癌で外科臨床的に頻度, 治癒度の高いものとしては胃癌, 子宮癌, 乳癌, 大腸癌などがあげられる。頻度は低いが治癒度がやや高いものとして泌尿器系の癌, 上顎癌, 口腔癌, 喉頭癌, 前立腺癌などがあげられる。日本人に比較的多いが治癒度の低いものとして肝・胆道系の癌, 食道癌, 肺癌などがあげられる。そして脾臓癌, 卵巣癌, リンパ節細網肉腫などは頻度, 治癒度ともに低いと考えられる。

他臓器癌重複大腸癌の手術例にみられる他臓器癌の種類は頻度はほぼこの順に類似しており, 個々の内容をみるならば胃癌は異時性他重複, 同時性他重複ともに多く普通型といえ, 乳癌は同時性重複, 他先重複に多い。

他臓器癌の系統別の分析によると, 本邦では消化器系が多いといわれており他先重複で50.0%, 同時性重複で73.3%, 大腸先重複で56.4%であった。ただしこれを細別すると胃癌の比率が高い他先重複, 同時性重複の男性例で78.6%, 87.3%と増加し, 同時性重複の女性例は56.5%と低下し, 乳癌, 子宮癌が高率にみら

表5 大腸癌に重複した他臓器癌の種類

他臓器癌の種類	他先重複			同時性重複			大腸先重複			剖検例（日本病理剖検輯報昭33~43）
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
胃 癌	19個	1個	20個	40個	20個	60個	13個	2個	15個	45個
乳 癌		7個	7個		13個	13個		2個	2個	2個
腎・腎盂・尿管膀胱癌	1個		1個	1個	2個	3個	6個		6個	8個
子 宮 癌		8個	8個		1個	1個		2個	2個	6個
胆 囊 胆 管 癌					1個	1個	1個	3個	4個	2個
そ の 他	8個	2個	10個	14個	9個	23個	6個	4個	10個	34個
計	28個	18個	46個	55個	46個	101個	26個	13個	39個	97個
消 化 器 系	22個	1個	23個	48個	26個	74個	15個	7個	22個	52個
異 系	6個	17個	23個	7個	20個	27個	11個	6個	17個	45個

表6 他臓器癌の重複をみた大腸癌の大腸区分と単発・多発の別

		他先重複における後発大腸癌	同時性重複における大腸癌	大腸先重複における先行大腸癌
大腸区分	盲 腸	2個 4.2%	7個 6.9%	6個 15.4%
	結 腸	21個 43.8%	45個 44.6%	18個 46.2%
	直 腸	25個 52.1%	49個 48.5%	15個 38.5%
	計	48個	101個	39個
単発・多発の別	単 発 癌	34例 82.9%	65例 84.4%	22例 73.3%
	大腸内同時多発癌	4例 9.8%	12例 15.6%	
	大腸癌異時性重複	1例 2.4%		7例 23.3%
	大腸内同時多発および異時性重複	2例 4.9%		1例 3.3%

表7 他臓器癌の重複をみた大腸癌の悪性腫瘍の遺伝負荷および大腸ポリプ合併頻度

		他先重複	同時性重複	大腸先行重複
2親等までに悪性腫瘍あり		6/15 40.0%	14/48 29.2%	8/17 47.1%
悪性腫瘍の内容	大腸癌		1個	9個
	胃 癌	6個	7個	2個
	子 宮 癌	4個	2個	2個
	そ の 他	2個	5個	3個
	計	12個	15個	16個
	消化器系	7個 58.3%	10個 66.7%	12個 75.0%
異 系	5個 41.7%	5個 33.3%	4個 25.0%	
大腸ポリプ合併例		4/13 30.8%	7/41 17.1%	3/13 23.1%

れる他北重複の女性例では5.6%と極端に低下している。他臓器癌の種類はこのように重複の時期と性別によって大いに異なることを銘記すべきである。

さて他臓器癌重複大腸癌の報告例の年間増加率をみると過去約10年間の報告例は更にその10年前とくらべると約2倍に増加しており、他先重複は3.7倍、同時性重複は2.9倍となっている。しかし大腸先重複は1.5倍とあまり目立たないがこの群はとくに内因の関与が大きく¹⁴⁵⁾、症例がそれほど多くないためかもしれない。

性比はむしろ合併した他臓器癌の種類に左右され胃癌、子宮癌または乳癌が多い他先重複および同時性重複では1.65:1, 1.26:1と一般大腸癌手術例なみであるのに対し、大腸先重複では子宮癌、乳癌が減少し、男に多い泌尿器系の癌が増加するため2.40:1と男の比率が増加している。

他臓器癌重複大腸癌と判明した時の手術時年齢を検討した結果では、他先重複58.5歳、同時性重複57.2歳、大腸先重複で59.8歳と一般大腸癌手術例なみであるが、大腸先重複の男で先行大腸癌手術時の年齢は50.8歳と10歳近くも若かった。すなわち男で50歳以下の比較的若い時期に発生した大腸癌症例の術後には他臓器の検査および入念な術後追跡がとくに必要であろう。

大腸癌の大腸区分をみると、他先重複では直腸が、大腸先重複では結腸が最も多く、同時性重複がちょうど両者の中間に位置している。これは両者の特徴を兼備していると考ええると興味深い。大腸癌手術時の年齢が大腸先重複の男性以外はあまり差がないことから、年齢以外の因子を考慮したい。

大腸癌の単発、多発の別をみると、異時性他重複で後発大腸癌の82.9%が単発性であるのに対し、先行大腸癌では73.3%と減少し、大腸癌異時性重複が23.3%と有意に増加した。これは先行大腸癌症例では経過追跡が長いかもしれないが、先行大腸癌は男に比較的多いこと、平均年齢が若年側にずれていることなどを考えあわせると内因の関与も大きいと思われる。同時性他重複では大腸内同時多発癌が15.6%に達し、大腸先の0.0%、他先重複の9.8%よりも有意に多く、一般の同時性大腸内多発生頻度5.3%¹⁴⁶⁾より明らかに高率である。

大腸癌手術と他臓器癌手術の間隔については文献が少ない。一般の重複癌の場合、約80%は同時性、約20%が異時性で、間隔が大になるほど症例数が減少する¹⁴⁷⁾という。その理由は重複癌を発生させる非局所的要因が時とともに弱まってゆくといえより、むしろ第2癌

発生以前に死亡する患者が多いためとしている。一方、癌研外科における胃癌手術と他臓器手術の間隔の分析結果では同時性重複を中央最高峰とする明らかな3峰分布を示しており、その理由は他臓器癌も胃癌も治療後2, 3年以内に死亡するものがまだ高率のためとしている¹⁴⁸⁾。本邦文献例における大腸癌手術と他臓器手術の間隔は、他先重複は最高14年、大腸先重複は最高20年で、胃癌例にくらべると有意に多い同時性重複と、それに隣接した他先重複部とを中心とする最高峰と、7ないし10年他臓器癌が先行する低い峰とからなるほぼ2峰性の分布を示している。これは大腸癌は胃癌よりも同時性重複が有意に多いこと、子宮癌、乳癌のかなりの症例が7ないし10年先行していること、大腸癌の治癒度が胃癌より良好で、陥凹部を示しがたいことなどによると思われる。

悪性腫瘍の遺伝負荷は他先重複で40.0%、大腸先重複で47.1%といずれも一般大腸癌手術例の30.8%にくらべ高率であったが、同時性重複では29.2%となっていた。また悪性腫瘍の遺伝負荷のある症例にみられた血族の悪性腫瘍の内容には特徴があり、他先重複例と同時性重複では胃癌が最も多く、大腸先重複では大腸癌が最も多かった。

大腸癌については従来から大腸ポリープの合併が重視されており、本邦では単発性大腸癌の2—30%、多発性大腸癌の70—80%¹⁴⁹⁾にその合併が認められている。しかし今回の検索では他先重複で30.8%とやや高率をしめたが、同時性重複17.1%、大腸先重複23.1%とほぼ一般の大腸癌手術例なみであった。

IV. おわりに

他臓器重複大腸癌の手術例について自験例11例と本邦文献例165例を収集し、臨床統計的に分析して次の結果を得た。

1. 自験例は大腸癌手術全例の8.3%に相当した。文献集計例では他臓器癌重複大腸癌中他先重複25.6%、同時性重複55.1%、大腸先重複19.3%で最近症例数は増加しており、とくに他先重複が著しかった。

2. 他臓器癌の種類は他臓器重複胃癌におけると同様、日本人に多い癌、臨床的に治癒度の高い癌が上位をしめた。3者共に胃癌が最も多く、個別では他先重複で子宮癌、乳癌が、大腸先重複では泌尿器系の癌、胆のう、胆管癌が多かった。

3. 他先、同時性重複および大腸癌手術全例と比較すると、大腸先重複は特異的で、大腸癌手術時年齢が有意に若く、とくに男でそれが著明で7歳以上若く、

また単発性の比率が減少し、大腸癌を最多とする悪性腫瘍の遺伝負荷が高率だった。したがって内因の関与が大きいと考え、他先重複と大腸先重複は分けて取り扱った。

4. 大腸癌の大腸区分は、他先重複では直腸が、大腸先重複では結腸が最も多く、同時性重複ではちょうど両者の中間に位置しほぼ同率であった。また同時性重複における大腸内同時多発発生率は15.6%で、異時性他重複に比べて有意に増加していた。

5. 大腸癌手術と他臓器手術との間隔は、同時性重複とその他先重複側とを中心とする高い山と、7ないし10年他臓器癌が先行する低い山とからなるほぼ2峰性の分布を示した。

6. 大腸ポリープの合併率はほぼ一般の大腸癌手術例なみであった。

本論文の主旨は第18回日本消化器外科学会総会にて発表した。

稿を終るにあたり、ご指導とご校閲をいただいた関 正威助教授に深謝する。

文 献

- 1) 医学中央雑誌刊行会：医学中央雑誌 第63巻—第389巻：1939—1981
- 2) 鈴木清治：他臓器の異種癌を併発せる胃癌例報告。日外会誌 25：1550—1557, 1924
- 3) 土肥清正：胃及び横行結腸に於ける同時性重複腫瘍の二治験例。日外会誌 40：1318, 1939
- 4) 渡辺珠夫：重複性癌の4症例。掖済会医誌 2：7, 1951
- 5) 小林秀夫：上顎洞及び直腸の重複癌。日耳鼻会報 54：485—487, 1951
- 6) 藤谷恒子，石田美枝：婦人科に関係深い直腸癌の2例に就て。東京女医大誌 22：125, 1952
- 7) 福地誠也：胃及び盲腸に同時に発生したと思われる癌腫の1手術例。日臨外 14：25, 1953
- 8) 劉 万生：重複癌の1例。癌の臨床 2：76—82, 1956
- 9) 朝倉元晴，久野敬二郎：胃および結腸重複癌の3治験例。癌の臨床 3：447—454, 1957
- 10) 金子千侍，本間 栄：重複癌の3例。癌の臨床 3：752—757, 1957
- 11) 村山長一，阿部武暎：子宮癌術後1年にして起った結腸小腸瘻を伴う結腸癌の手術治験例。日臨外 19：43, 1958
- 12) 池淵 成，小島昭三：胃及び横行結腸重複癌の1例。外科 21：585—587, 1959
- 13) 宮城秀文，勝田 晃，潘 竹雄：胃・直腸重複癌の1例。癌の臨床 5：231—233, 1959
- 14) 木山 徹，赤沢康雄，梶谷清己ほか：胃及びS字状結腸に観られた重複癌の1例。癌の臨床 5：694—696, 1959
- 15) 横沢公雄：重複癌の1例。信州医誌 8：133—136, 1959
- 16) 中村輝久，深川文夫：重複癌の1治験例。外科 22：280—283, 1960
- 17) 深町信一：盲腸，胃重複癌の1治験例。千葉医誌 36：1096, 1960
- 18) 大沼貞雄，阿部土郎：直腸癌を伴える多発性骨髄腫の1例。癌の臨床 6：411, 1960
- 19) 吉原 暲，奥茂信行：直腸，甲状腺重複癌の1例。日外会北海道地方会誌 6：62, 1960
- 20) 菅村輝彦，河田幸一：消化管重複癌の1例。岡山医誌 72：1288, 1960
- 21) 大脇義人：重複癌の1治験例。日赤医学 14：122—123, 1961
- 22) 喜多芳式：症例(2)，直腸癌を伴ったGrawitz腫瘍。泌尿器科紀要 7：629, 1961
- 23) 桑原 稔：直腸癌とGrawitz腫瘍の併存例。日臨外 23：134—140, 1962
- 24) 石田哲夫，荒木謙次，小出弘昭：胃・直腸重複癌の1例。信州医誌 12：373—376, 1963
- 25) 国益 尚，岡本英三，渡辺 巖ほか：乳腺と直腸に観られた重複癌の1例。日外会誌 65：468, 1964
- 26) 国藤三郎，河合寿一：重複癌（乳癌と直腸癌）の1例。日外宝 34：1392, 1965
- 27) 下山田和夫：胃及び横行結腸重複癌の1手術経験例。日臨外 27：72—73, 1966
- 28) 碓井貞仁：直腸胃重複癌の1例。千葉医学 42：243, 1966
- 29) 山内陽一，木下辰男，西島義信ほか：若年者消化管重複癌の1例。日外会誌 68：442, 1967
- 30) 志村秀彦，松永俊泰：原発性重複癌について。外科診療 9：522—528, 1967
- 31) 奥 孝行，木村 完，奥田 正ほか：食道と直腸の同時性重複癌。癌の臨床 13：115—117, 1967
- 32) 山形敏一，増田久之，三浦清美ほか：重複癌（胃および結腸癌）の1例。日消誌 64：1160, 1967
- 33) 細川 弘：多発性癌腫の一例。癌 33：168—171, 1968
- 34) 高邑裕太郎，戸塚 侑，長谷川英之ほか：消化管重複癌の2例。日消病会誌 65：301, 1968
- 35) 石田 忠，須賀井忠男，田村暢男ほか：重複癌の5症例。外科 31：837—841, 1969
- 36) 森 克己，吉川邦生，高橋示人：重複癌（早期癌及び結腸癌）の1例。日消病会誌 66：570, 1969
- 37) 藤田 馨：稀有な重複癌の一症例（胃早期癌I型と盲腸癌）。沖繩医学 9：72, 1970
- 38) 天羽達郎，鈴木博孝，榊原 宣：食道胃結腸に亘る同時性4重複癌の一治験例。外科診療 13：1021—1025, 1971

- 39) 岩崎利通, 安達秀雄, 山内義正ほか: 重複癌の6例. 特に直腸と腎の重複癌例. 外科 33: 646—651, 1971
- 40) 下山孝俊, 池田敏明, 安藤政理ほか: 重複癌(乳腺 Paget 病・直腸癌)の1治験例. 外科 33: 985—989, 1971
- 41) 春田皓之: 胃癌および多発性結腸癌の1例. 大腸肛門誌 26: 218—220, 1973
- 42) 佐藤和徳, 泉雄 勝, 川井忠和ほか: 若年女子の両側乳房および直腸における重複癌の1例. 癌の臨床 19: 880—886, 1973
- 43) 檜本純一, 是此田稔, 藤原 侃ほか: 盲腸癌に重複併存した多発早期胃癌. 癌の臨床 19: 871—875, 1973
- 44) 古屋正人, 花上 仁, 中島竜夫ほか: 胃と直腸の重複癌の1例. 癌の臨床 19: 1028—1031, 1973
- 45) 渡辺英宣, 戸叶正俣, 大司俊重郎ほか: 直腸並に胃に発生した重複癌の1例. 神奈川医誌 1: 173, 1973
- 46) 山下宏治, 本山 保, 高羽貞義ほか: 十二指腸・直腸の同時性重複癌の1例. Gastroenterol Endosc 15: 306—307, 1973
- 47) 加藤 清, 赤井貞彦, 島田寛治ほか: 乳腺・直腸重複癌の3手術例. 日本癌学会総会記事 33: 191, 1974
- 48) 山本信徳: 早期胃癌を合併した進行結腸癌の2例. 日大医誌 33: 57, 1974
- 49) 新井裕二, 鍋島欣市, 花岡建夫ほか: 直腸胃重複癌の1治験例と重複病変の検討. 杏林医誌 5: 53—54, 1974
- 50) 木原鴻洋, 太田陽一, 泊 康男ほか: 重複癌(早期胃癌I型と結腸癌)の1例. 日消病会誌 71: 833, 1974
- 51) 湯川研一, 橋本和治: 胃大腸重複癌の1例. 日内会誌 63: 671, 1974
- 52) 網村史郎, 瀬川安雄, 山本恵一: 胃・結腸重複癌の症例. 日外会誌 75: 580, 1974
- 53) 千葉満郎, 棟方昭博, 福士勝久ほか: 早期胃癌(IIb+IIc)に多発性結腸癌を伴った1症例. 胃と腸 9: 603—607, 1974
- 54) 飯塚益生, 木村信良, 入交信広ほか: 胃・横行結腸同時性重複癌の1例. 臨外 36: 184—189, 1975
- 55) 西村好雄, 菊地 博, 榊原 稔ほか: 胃・大腸の多発重複癌の1例. 神奈川医誌 3: 150—151, 1975
- 56) 渡辺伸一郎, 丸山正隆, 竹本忠良ほか: 結腸癌を合併した十二指腸潰瘍術後残胃の早期癌の1例. Gastroenterol Endosc 17: 279—280, 1975
- 57) 船曳孝彦, 吉崎 聰, 守谷孝夫ほか: S状結腸癌を伴い, 腸重積を合併したリンパ肉腫の1例. 日臨外 36: 352, 1975
- 58) 坂本俊雄, 森川英雄, 黒木幹也ほか: 胃・上行結腸の同時性重複癌の1例. 緊急手術後心筋硬塞併発例. 日大医誌 35: 697—303, 1976
- 59) 金子保彦彦, 細井信夫: 三重複早期癌(胃S状結腸直腸)の1例. 日消外会誌 9: 569, 1976
- 60) 斉藤敏比古, 丸山英太, 野中道泰ほか: 胃粘膜内癌と結腸癌の重複例. 日外会誌 77: 1599, 1976
- 61) 前田外喜男, 杉 重喜, 杉山道雄ほか: 多重複癌の1例. 大腸肛門誌 29: 41—42, 1976
- 62) 浦壁正夫, 原 義治, 堀井宏雄ほか: 直腸と舌との重複癌の1症例. 京大口腔科紀 16: 47—00, 1976
- 63) 田中豊治, 宮崎道夫, 鶴木 隆ほか: 重複癌(S状結腸癌+早期胃癌)の1症例. 日臨外 37: 764, 1976
- 64) 前田尚武, 濟陽高穂, 荻野知己ほか: 重複癌(乳癌と直腸癌)の2症例. 日癌治会誌 12: 585, 1977
- 65) 中川原儀三, 小島靖彦, 中川 正: 乳腺・結腸重複癌の1例について. 外科 39: 1462—1466, 1966
- 66) 成田憲彦, 谷 靖彦, 大島仙哉ほか: 直腸・肺の1症例. 肺癌 17: 238, 1977
- 67) 山田兼松, 藤原京二, 鈴木正康ほか: 胃および直腸重複癌の2治験例. 外科 39: 730—732, 1977
- 68) 山崎四郎, 高橋一郎, 大田英夫ほか: 直腸・膵重複癌の経験. 日消病会誌 74: 402, 1977
- 69) 染野吉晃, 福住弘雄, 米満隼臣ほか: 胃と直腸に発生した重複癌について. 日外会誌 79: 238, 1978
- 70) 雨宮慎二, 大井田二郎, 橋本俊明ほか: 胃大腸重複癌の2例. 高知中病医誌 5: 35—42, 1978
- 71) 山下健東, 梅山 馨, 北村輝男: 結腸・十二指腸膨大部領域重複癌の1治験例. 癌の臨床 744: 794—799, 1978
- 72) 山初順一, 服部邦生, 村岡恒良ほか: 大量吐・下血をみた胃及びS状結腸重複癌の1例. 日消病会誌 75: 1877, 1978
- 73) 斉藤吉人, 梅田典嗣, 下条えみほか: 皮膚の基底細胞癌を伴った結腸癌の1例. 日消病会誌 75: 1882, 1978
- 74) 下山孝俊, 内田雄三, 北里精司ほか: 大腸における扁平上皮癌と腺癌および胃早期癌の合併した1例. 癌の臨床 24: 632—636, 1978
- 75) 竹下公矢, 坂野俊孝, 杉原国扶ほか: 胃と大腸の重複悪性腫瘍切除の検討. 日消外会報 12: 197, 1979
- 76) 西尾幸男, 瀬藤晃一, 植松 清ほか: 胃癌と直腸癌の重複癌4症例の経験. 日消外会誌 12: 197, 1979
- 77) 西尾幸男, 瀬藤晃一, 五百蔵昭夫ほか: 胃癌と結腸癌の重複癌5症例の検討. 日消外会誌 12: 141, 1979
- 78) 田中明輔: 重複癌(胃・直腸)の1例. 日外会誌 80: 377, 1979

- 79) 金子芳夫, 龍村俊樹, 中川正昭ほか: 腸と直腸にみられた重複癌の1例. 手術 33: 1403-1406, 1979
- 80) 高野靖悟, 右井英世, 河口忠彦ほか: 胃と上行結腸の異所性, 同時性の重複癌について. 日大医誌 39: 88, 1980
- 81) 鈴木幹三, 古山明夫, 岸本明比古ほか: 直腸, 肺重複癌の1例. 日消病会誌 77: 120, 1980
- 82) 伊勢 久: 重複性癌(胃癌直腸癌)症例. 日外会誌 44: 1145, 1944
- 83) 山本礼二, 鳥海 徹: 多発性原発癌の2症例. 東北医誌 45: 489-492, 1951
- 84) 加藤守彦, 伊藤佐喜男, 池田周司ほか: 重複癌と思われる1例について. 日外会誌 61: 630, 1960
- 85) 安本 裕, 山中敏彦, 胃癌手術後4年半して直腸癌を発病した1例. 日外宝 31: 253-257, 1962
- 86) 槇 哲夫ら: 胃癌再発を思わせた異時性思腸重複癌について. 治療 45: 959-968, 1963
- 87) 田中英二, 常松 潔, 藤田浩也ほか: 乳癌摘出後約9年にて発生せる真性膵臓嚢腫を伴える上行結腸癌の1例. 日消誌 60: 595, 1963
- 88) 世良敏行ほか: 多発性原発癌と思われる1例(胃一直腸一盲腸). 通信医学 15: 776, 1963
- 89) 庄司忠実, 小野寺耕, 小松山満雄ほか: 重複癌の1症例. 日消病会誌 64: 758, 1967
- 90) 神谷敏夫, 中川良隆, 山内裕一ほか: 子宮癌手術後8年目に大腸癌の発生を得観た重複癌の1例. 日消病会誌 64: 1163, 1967
- 91) 伊地知浜夫, 宮崎泰一, 植田洋明ほか: 重複癌の2症例. 日消病会誌 66: 570, 1969
- 92) 浜口栄祐, 古味信彦, 青柳和彦ほか: 胃及び直腸の原発性重複癌の根治手術. 日消病会誌 66: 677, 1969
- 93) 宮司 勝: 胃・直腸・子宮重複癌の1例. 千葉医誌 46: 118, 1970
- 94) 浅井保衛, 森田弘之: 子宮癌, 乳癌の既往を有する直腸ポリープ状癌の1例. 日外会誌 72: 265, 1971
- 95) 伴場次郎, 葛西 一, 山中 晃ほか: 肺癌 12: 280, 1972
- 96) 中村文雄, 苦川 検, 岡本康比古ほか: 左上顎・上行結腸重複癌の1手術症例および文献的考察. 医療 26: 302-303, 1972
- 97) 石田 忠ほか: 胃・結腸重複癌の術後残胃に穿孔した結腸癌の一症例. 神奈川成人病センター研収録 1: 55-58, 1973
- 98) 米地 稔, 大久保田和弘, 木村莊一ほか: 肺および結腸の重複癌症例. 日胸外会誌 21: 1099-1100, 1973
- 99) 山本義一: 異時性食道直腸重複癌の一治験例. 千葉医誌 50: 319, 1974.
- 100) 中川 健, 木下 敏, 梶谷 鑽ほか: 胃・結腸・三重複癌の1症例について. 肺癌 14: 134, 1974
- 101) 喜田 剛, 奥村檜哉, 武富弘行ほか: 子宮体部癌術後7年目にみられた結腸癌の1例. 福大医紀 2: 373-378, 1975
- 102) 古山信明, 樋口道雄, 更科広実ほか: 直腸癌と乳癌の重複癌の1例. 日消病会誌 73: 195, 1976
- 103) 谷口 遙: 3重複癌(右乳癌, 胃癌, 横行結腸癌)の1手術例. 日外会誌 77: 1454, 1976
- 104) 小林祐輔, 武田清一, 山野 元ほか: 乳房および直腸における重複癌の1例. 日癌治会誌 12: 587, 1977
- 105) 古山信明, 奥井勝二, 樋口道雄: 上顎と直腸の重複癌の1例. 日消病会誌 74: 96, 1977
- 106) 成未充勇, 岡島邦雄, 藤井康宏ほか: Vater 乳頭部癌と他臓器重複癌. 自験3例と本邦報告例の検討. 臨外 32: 1041-1047, 1977
- 107) 古川俊隆, 谷 治郎, 本田善九郎ほか: 三重複癌(子宮・乳・直腸癌)の1手術治験例. 臨外 32: 1457-1461, 1977
- 108) 中西正三, 戸田完治, 岡本 基ほか: 同時性早期胃・早期胆嚢重複癌の1治験例と異時性早期胃・直腸重複癌の1治験例. 日外会誌 79: 427, 1978
- 109) 高田格郎, 松島正浩, 徳江章彦ほか: 三重癌(膀胱・直腸・胃)の1生存例. 日泌会誌 69: 632, 1978
- 110) 三好雅美, 小山秀樹, 貝増勲彦ほか: 興味ある大腸重複癌の1例. 癌の臨床 24: 1251-1254, 1978
- 111) 丸谷 敏, 前村 健, 富田壽児ほか: 直径8 mmで漿膜浸潤を認めたS状結腸重複癌の一例. 大腸肛門誌 32: 366-367, 1979
- 112) 田中啓二, 筒 信隆, 日吉雄一ほか: 原発性小腸癌の術後3年目に上行結腸に重複癌が発見された1例. 日消病会誌 77: 473, 1980
- 113) 若林 傍: 直腸癌根治手術後4年にして後腹膜に発生したる細胞肉腫の1例. 癌 35: 72, 1941
- 114) 矢吹四郎: 胃腸の原発性多発癌と思わるる一例. 日外会誌 42: 1388, 1941
- 115) 中村正一郎: 結腸及び左腎盂に発生した重複癌の1例. 臨外 14: 554, 1959
- 116) 木山 敏, 石合省三: 直腸癌と副腎腫の併存例. 癌の臨床 6: 396-398, 1960
- 117) 北島 隆, 金子昌生, 木戸長一郎ほか: 重複悪性腫瘍の発現頻度に関して症例報告並びに統計的考察. 癌の臨床 6: 337-345, 1960
- 118) 蜂須賀喜多男, 加藤王千: 乳腺・子宮重複癌並びに結腸, 軟口蓋重複癌. 癌の臨床 9: 44-47, 1963
- 119) 三隅厚信, 朝倉元晴, 西 満正ほか: 直腸・胆嚢異時性重複癌の1手術症例と文献的考察. 癌の臨床 10: 818-824, 1964
- 120) 村井 惇, 長谷川敬三: 断端癌と結腸癌の重複例. 産と婦 32: 339-342, 1965
- 121) 佐藤 進, 渡辺哲夫, 兼田紀美子ほか: 直腸およ

- び十二指腸の原発性重複癌の1根治手術例. 外科
27: 1329—1333, 1965
- 122) 江原英彦, 森岡哲吾, 福田勝次: 結腸・胃重複癌
の1治験例. 外科治療 14: 502—504, 1966
- 123) 青木幹雄, 服部隆延, 中村 真: 異時性四重癌(直
腸癌・卵巣癌・子宮体癌・早期I型胃癌)の治学例.
癌の臨床 13: 435—441, 1967
- 124) 浅利和夫: (異時性)三重癌の1例. 新潟病医会
誌 15: 37, 1967
- 125) 熊谷 修, 盛田健郎, 早乙女実次ほか: 教室に於
ける重複腫瘍の検討. 日消病会誌 65: 564, 1968
- 126) 坂下 勲, 当間恵三: 三重癌の一症例. 日外会誌
69: 507, 1968
- 127) 高安久雄, 小川秋実, 松本 泰ほか: 重複癌の一
例. 日泌会誌 60: 177, 1969
- 128) 齊藤達雄, 大平貞雄, 前沢 祥ほか: 廻盲部癌切
除の3年後における胃癌について. 癌の臨床
15: 667—672, 1969
- 129) 坂田安之輔: 横行結腸及び尿管に発生した重複癌
の1例. 日泌会誌 62: 197, 1971
- 130) 山初順一, 箱崎 敬, 清水淑文ほか: 胆嚢, 結腸
重複癌. 日消病会誌 68: 511, 1971
- 131) 大山 満, 長野繪一, 阿久根務ほか: 大腸重複癌
と早期胃癌を認めた1症例. 癌の臨床 18:
826—830, 1972
- 132) 大畑武夫: 二重肺癌の症例. 直腸癌との重複例.
肺癌 12: 281, 1972
- 133) 山下忠義, 是成知行, 松本義信ほか: 異時性, 異
所性三重重複腫瘍(直腸癌, 結腸のカルチノイド,
胃多発癌)の1例. 癌の臨床 19: 249—253, 1973
- 134) 古山信明, 奥田勝二, 樋口道雄ほか: 大腸と胃の
重複癌症例について. 日本大腸肛門病誌 27:
106—107, 1974
- 135) 千葉栄一, 浅利和成, 藤巻宏夫: 重複癌の1例(横
行結腸・胃・直腸および膀胱). 日泌会誌 65:
341—342, 1974
- 136) 青柳和彦, 木村信良, 岡村 孝ほか: 直腸および
肝内胆管の異時性重複癌の1症例. 日消外会誌
7: 352—356, 1974
- 137) 石沢 隆, 野村秀洋, 大塚直純ほか: 重複癌(S状
結腸癌と乳癌)の1治験例. 外科診療 18:
177—180, 1976
- 138) 村山寛永, 佐久間正祥, 稲垣 宏ほか: 異時性大
腸5重複癌に尿管癌を合併したfamilial colon
cancerの1例. 日本大腸肛門病誌 31: 292, 1978
- 139) 三品寿雄: 右肺下葉切除既往を有する高齢者に対
する3重複癌(横行結腸・直腸・左葉下葉)の1
手術例. 肺癌 19: 100, 1979
- 140) 石原歳久, 大原敬二, 山崎 東ほか: 直腸乳腺重
複癌の1例. 最新医学 34: 1331—1334, 1979
- 141) 覚道健治, 松本 薫, 太田 光ほか: 舌と盲腸の
重複癌の1症例. 歯科医学 42: 321—327, 1979
- 142) 古賀昭夫, 岩崎泰憲, 奥野武彦ほか: 結腸・肺重複
癌と思われる一切除例について. 肺癌 19: 94,
1979
- 143) 日本病理学会編: 日本病理剖検輯報. 昭和33年度
—43年度.
- 144) 西 満正, 関 正威: 重複腫瘍の問題点. とくに
胃癌を中心としての考察. 医学のあゆみ 80:
188—192, 1972
- 145) 関 正威, 小林正幸, 羽田野隆ほか: 異時性他臓
器癌の重複をみた大腸癌の手術例の検討. 埼玉大
誌 7: 31—41, 1980
- 146) 羽田野隆, 関 正威, 小林正幸ほか: 大腸重複癌
の臨床的特徴について. 日消外会誌 14: 989,
1981
- 147) 北条慶一, 広田映五: 大腸ポリープと癌. 胃と腸
5: 1369—1380, 1970